

2022. 8. 01

歴史民俗資料館だより No.145

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

くんち資料展

会 期 8月25日(木)～10月9日(日)

展示品 くんち衣装、踊町の写真(傘鉾・演し物)、手ぬぐいなど 約150点



愛宕焼 花器 (中原仁市作 長崎土壺)

大正時代 (1912～1925) 野々村 俊明氏寄贈

くんち踊町の龍踊等の演し物がレリーフされています。

寛永 11 (1634) 年に長崎諏訪神社の秋の大祭「くんち」が始まり、今年で 388 年となります。

長年の間に、江戸時代の大火災、昭和の戦災や大水害、そして町名変更などをへて、時代と共に 7 年に 1 度出演する踊町の数や組合せ、演(だ)し物の多くが変化してきました。

しかし、今年の「長崎くんち」も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 年連続して、奉納踊り・お上り・お下りは中止となりました。

そこで、今回の企画展は、来年こそ「長崎くんち」が開催されることを期待して、これまで展示されてきた各踊町の資料や演し物の写真等を中心に、「長崎くんち」の魅力を紹介する内容といたしました。

今回の展示に際しまして、貴重な資料等をご寄贈いただいた皆様や各踊町の関係各位に深く御礼申し上げます。



江戸町 兵式教練遊軍士官衣装

大正 2 (1913) 年 川添弘之氏寄贈

くんちの語源

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日のくにちが「くんち」になったと言われています。

諏訪神社では寛永 3 (1626) 年はじめて神楽を奏し湯立神事が行なわれましたが、大祭の最初は寛永 11 (1634) 年でした。この時の社地は、まだ現在の玉園山に移る前の円山(現、松ノ森神社)で、(慶安元年・1648・遷宮) 9 月 7 日、遊女高尾・音羽の両人が神前に謡曲小舞を奉納。午後、神輿が御旅所に渡御され、8 日が大祭で、御旅所で湯立神事が執行され、9 日無事神輿は還御されました。



勝山町大薩摩踊使用太鼓 (くんち現存最古資料)

延宝伍丁巳 (1677) 年 野川雅生氏寄贈



本石灰町 御朱印船長采衣装
平成 11 (1999)年 山口 哲治氏寄贈



船大工町 川船根曳衣装
昭和 52 (1977)年 光永 義久氏寄贈



紺屋町 川船船頭衣装
昭和 8 (1933)年 若山 静枝氏寄贈



駅前町 (現、大黒町) の唐人船船頭衣装
昭和 36 (1961)年 中川 雅夫氏寄贈



家紋まん幕
昭和 17 (1942)年 峰 道子氏寄贈



羽織型くんち手拭張り混屏風
昭和 60 (1985)年頃 吉村 愛子氏寄贈